

論壇

AIやIoTで生活変化

AI(人工知能)やIoT(モノのインターネット)などの技術革新によって私たちの生活は大きく変わろうとしている。特に、仕事の世界ではAIが多くの人の仕事を奪うと警鐘を鳴らす専門家もいる。確かに、AIが人間以上の仕事を成し遂げるケースも少なからずありそうだ。

検査結果などから患者の病気を診断においてAIの方が人間の医師の能力を超えるのは時間の問題だという専門家もいる。AIに資産運用を任せる試みが金融機関で始まっている。先日は、中国のテレビ局が人間そっくりのロボット

伊藤 元重 (国際経済学) 学習院大教授

にニュースを読ませていたが、人間のキャスターが読んでいたようだった。

AIが進化してくると、多くの人の仕事はAIに奪われ、ごく一部の高度技能者や資本家に所得が集中し、国民の多くは貧しくなっていく。こうした悲観的なシナリオを描く専門家もいる。

技術革新と所得分配

こうした予想が正しいかどうかを見極めるのは難しい。ただ、過去の歴史の中に参考になる経験があるはずだ。18世紀に英国で起きた技術革新は、人々の所得にどのような影響を及ぼしたのだろうか。

蒸気機関や自動織機などの発明によって、機械は人間の仕事を奪

っていった。自分たちの仕事を奪うと怒った労働者の一部は機械の打ち壊し運動まで起こした。それでも産業革命の流れが止まることはなかった。

産業革命によって英国の生産は拡大し、国全体の富も大きく増加した。しかし、それでも労働者の賃金が大きく上昇したわけ

だ。頻発した。後に資本家による労働者の搾取を厳しく批判した方イル・マルクスの思想が多くの人に受け入れられたのも当然の結果だろう。

若者が利用する立場に

もっともこうした労働者に不利な状況が永遠に続いたわけではない。19世紀後半になると経済成長の時代が始まり、労働者の所得は大幅に増加していくことになる。産業革命は長期間にわたって労働者に不利に働いたが、最終的には多くの労働者が産業革命を起点とした産業発展によって豊かになっていくのだ。

18世紀に始まった産業革命と、現在進行中の情報革命を、同等に語ることはできない。ただ、歴史には教訓になることも多いはず

だ。大きな技術革新が起きるときには、所得分配が大きくゆがむことになりかねない。情報革命で新しい技術が利用可能になっても、それで一部の人がだけを得をするような社会になつてはいけない。

政策的なレベルで言えば、貧困や過度な所得格差を生まないような所得分配政策がますます重要になるといえる。それ以上に重要なことは、この欄で何度か指摘してきたように、子供たちや若者が技術革新に仕事を奪われるのではなく、技術革新を利用する立場になれるよう、教育の内容を見直していくことだろう。そのためには、まずはAIを実際に使ってみることが重要だ。AIを知らずしてAIを使いこなすことはできないだろう。

\*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。